



335 複合地区ガバナー協議会議長 三宮 秀介

祝 辞

ライオンズクラブ国際協会 335-B 地区第 68 回年次大会が盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。日本屈指の会員数を誇る 335-B 地区にて、多くの仲間が集う大切な大会に招いていただき、各位が一年の労をねぎらい合う姿を目にすることができて光栄に思います。

正岡ガバナーは今年度のスローガンを『K A I Z E N～未来を拓く～』とされています。ライオンズクラブが創設 100 周年を超えて既に数年が経ちました。助けを求める人に手を差し伸べると言う奉仕の基本は変わることはありませんが、技術発展や制度改革、社会情勢によって、必要とされる奉仕は変わり続けています。揺るぐことがない奉仕の意義を掲げながらも、正岡ガバナーのもとで 335-B 地区の皆さんは、奉仕を行う側の責任として新しいライオンズの在り方を考え続け、挑み続けてくださいました。

更には、その奉仕が受益者だけでなく奉仕する皆さん自身を幸せにするものであることを正岡ガバナーは目指していらっしゃいました。B 地区の皆さんは仲間と楽しく奉仕を行い確かな成果を得ることで、正岡ガバナーの願いを実に軽やかに叶えてこられたとお見受けいたします。ライオンズクラブが 1 世紀を超えて続いている理由を改めて教えていただきました。

コロナ禍や戦争などの災厄が次々に生まれる昨今、我々は不安や焦燥の中にいます。しかしメルビン・ジョーンズがライオンズクラブを立ち上げた 1917 年は第 1 次世界大戦の最中です。翌 1918 年からは 3 年にわたるインフルエンザの世界的大流行がありました。その後にも再び世界大戦が起こり、冷戦の時代もありました。そのすべてをライオンズは乗り越え、奉仕を通して世界に幸福を配り続けてきたのです。これからもライオンズは苦しむ人々を助け支え、子どもたちにより広い世界を用意していきます。その先頭に立つ 335-B 地区の皆さんに笑顔が絶えないことは、どれほど周りを勇気づけることでしょう。

本日のこの大会が 335-B 地区の会員各位にとって、奉仕を通じた絆を再確認し、その絆がもたらす楽しみを最大限に味わう機会となることを願っております。

最後になりましたが、335-B 地区の益々のご発展とメンバー各位のご健勝とご多幸を祈念して、祝辞とさせていただきます。